

まるごと（入門 A1）コースでの「ひらがな読み書き」指導の工夫 － コースデザインから評価まで －

ガーダ ムスタファ ムスタファ ムーサ
カイロ日本文化センター

1. はじめに

国際交流基金カイロ日本文化センター日本語講座では、初級から中上級レベルまでのコースが開講されている。2015年1月より一部のレベルから徐々に JF 日本語教育スタンダードに準拠する『まるごと 日本のことばと文化』（以下『まるごと』）使用のコースに移行することになった。表1は導入（移行）のスケジュールである。

表1：『まるごと』導入スケジュール

コース名	使用テキスト範囲	レベル	開講時期
レベル1	『まるごと』入門（1課～10課）	初級	
	パイロット(1)		2014年1月～4月
	パイロット(2)		2014年10月～12月末
	本格コース		2015年1月 開講
レベル2	『まるごと』入門（11課～18課）		2015年8月 開講
レベル3	『まるごと』初級1（A2.1）（1課～10課）		未定
レベル4	『まるごと』初級1（A2.1）（11課～18課）		未定
レベル5	『まるごと』初級2（A2.2）（1課～10課）		未定
レベル6	『まるごと』初級2（A2.2）（11課～18課）		未定
レベル7	『まるごと』初中級		初中級
レベル8	『まるごと』中級（B1）（1課～5課）	中級	2015年1月開講
レベル9	『まるごと』中級（B1）（6課～9課）		2015年8月開講
レベル10	生教材		未定

**パイロットコース(1)については、安富（2105）参照のこと。なお、『まるごと』導入前のコースについても安富（2015）で示されている。

この実践報告では2015年1月から開講されたレベル1の『まるごと』入門を使った本格コース（以下、本格コース）の実践を取り上げ、特にひらがなの指導に関する取り組みを紹介する。

2. 実践コース(本格コース)の基本情報

実践として取り上げる本格コースの基本情報は表2のとおりである。

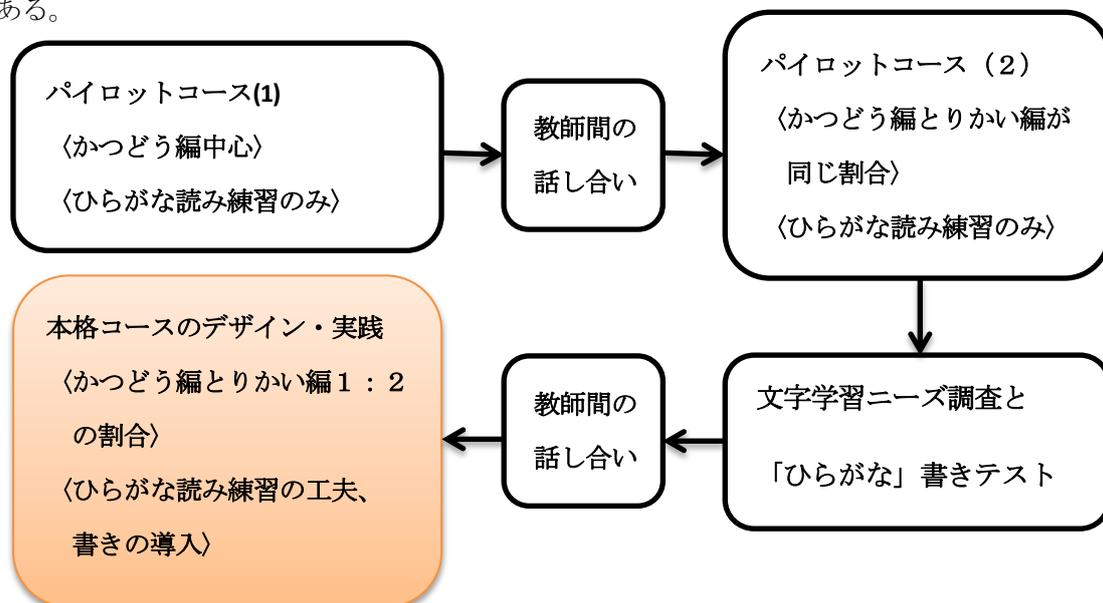
表 2 : 実践コース(本格コース) の基本情報

正式コース名	まるごと入門 レベル 1
コースレベル	A1
実施日時	2015年1月28日(日)～6月10日(水)
授業時間	120分@ 1コマ、週2回×18週=36回
授業担当教師	報告者(非母語話者非常勤講師) および 報告者以外の教師： 母語話者(日本語教育アドバイザー1人・非常勤講師1人) 非母語話者(常勤講師1人・非常勤講師1人)
クラスの学習者数	A/B/C 3クラス 合計：70人 (Aクラス：21人 Bクラス：23人 Cクラス：26人)
学習者の属性	性別：男性：32人 女性：38人 年齢：10代：11人 20代：49人 30代：8人 40代：2人 50代：0人 60代以上：0人 職業：中学生：0人 高校生：2人 大学生：27人 会社員：35人 その他(専業主婦、無職)：6人
使用教材	まるごと入門 (A1) かつどう編とりかい編
1トピックの時間配分	かつどう編(1回120分) りかい編(2回240分)

3. 本格コースに向けての準備

本実践報告では、上記のとおり本格コースでの「ひらがな読み書き」指導の工夫について述べるが、その本格コース開講前の準備段階について説明する。

この本格コースのデザインに「ひらがな読み書き」を組み入れるまでの流れは以下の通りである。



以下、それぞれの段階について説明する。

3.1 パイロットコース (1)

安富 (2015) の 通りパイロットコース(1)では『まるごと』 かつどう編を中心に使用し、りか

い編は文字紹介、クラス活動後の復習まとめのように補足的に使用された。文字指導は語彙カードを使った読み練習は行っていたが、文字書き指導は一切行っていない。文字評価も読みのみだった。

3.2 教師間の話し合い

筆者は、2014年7月に日本語国際センターのJF日本語講座教師研修の第2段階を受けた後、カイロ日本文化センター（以下カイロセンター）で講座の関係者を集めてその報告会を行い、研修で得たこと、たとえば、各拠点の発表やそこで出された課題や事例を紹介した。その報告会では、続いてカイロセンターの講座が持っている課題について話し合いを行った。その結果、文字指導について、以下の課題が出された。

- ・今まで文字を大事に指導して来たカイロセンターの講座の姿勢として、パイロットコース(1)で行った文字指導で十分なのか。また、学生はカイロセンター以外で、いつ、どこで習う機会があるか。
- ・入門のりかい編11課からローマ字表記がなくなるが、その際、今までローマ字表記に頼って読んだり、書いたりしていた学生はどうするか。
- ・文字の書き指導は習字の授業のみで、そのあと一切指導しなかったが、書き順や文字の形が崩れていて、それを永遠に直さずいると、くせになってなかなか治らなくなるのではないか。
- ・中級に向かって自立的に学習していかなければならない学習者は、その前に文字の壁を乗り越える力を持っていなければいけないのではないか。

上記の課題に対する解決法として挙げられたのが、報告会で示したマニラ日本文化センター（フィリピン）の講座の事例だった。同センターの講座では、『まるごと』入門A1の教科書が終わって、『まるごと』初級A2-1に上がる学生のために、文字コースを設けている。この方法を採用するのはどうかということについて、話し合った。

そこで、まず、学生の文字学習に対するニーズ調査が必要であると考え、パイロットコース(2)の終了時にパイロットコース(2)の学生を対象に文字学習ニーズ調査アンケートを取ることにした。

3.3 パイロットコース(2)

パイロットコース(2)ではかつどう編とりかい編の割合がパイロットコース(1)とは変わり、1課をかつどう編（120分1回の授業）りかい編（120分1回の授業）という同じ割合にしてこの順番で行った。文字指導に関しては、パイロットコース(1)と全く同じ方法で行った。ただし、前述の通り、コース終了時にニーズ調査を行った。また、ひらがな46文字書きのテス

トも行った。このテストの目的はひらがなの書き指導を受けなかった結果、学習者の文字能力はどうなっているのかを知り、次の本格コースで文字指導を考える上での参考にするためのものであった。

3.4. 文字学習ニーズ調査とパイロットコース(2)のひらがな書きテストの結果

3.4.1 文字学習ニーズ調査の結果

パイロットコース(2)の16人の学生を対象にした文字学習ニーズ調査の結果は次のとおりだった。

表3：文字学習ニーズ調査の結果

項目	はい	いいえ
コース前にひらがなを少し勉強したことがある。	8	8
コース前にカタカナを少し勉強したことがある。	5	11

項目	はい	いいえ	まあまあ
コース終了後ひらがなが読めるようになりましたか。	14	0	2
『まるごと』教科書のひらがなが読めるようになりましたか。	8	0	8

項目	40-46	30-40	21-30	11-20	1-10
コース終了時にどのくらいひらがなが読めるようになりましたか。	11	2	1	2	0

項目	大賛成	賛成	普通	反対	大反対
文字学習に興味がある。	12	4	0	0	0
文字読みを学習したい。	13	3	0	0	0
文字書きを学習したい。	15	1	0	0	0
文字読みは難しい。	3	1	5	6	1
文字書きは難しい。	2	2	4	8	0
文字学習はこれからの日本語学習に必要なものだ。	14	2	0	0	0
文字学習はこれから日本語の本や雑誌が読めるようになるための大切なものだ。	14	2	0	0	0
文字学習は日本のインターネットサイトや日本についていろいろなことが調べられるようになるための大切なものだ。	16	0	0	0	0
書道体験は楽しかった。	15	0	1	0	0
書道体験は文字学習に興味を持つきっかけとなった。	8	7	1	0	0
文字学習より会話のほうが大切。	5	5	5	1	0
まるごと講座では、もう少し文字学習の時間を設けてほしい。	8	3	3	1	1
文字講座があれば受けたい。	9	2	2	3	0
インターネットサイトやビデオやゲーム等を通して自習で文字習得の壁を乗り越えることができる。	4	3	5	3	1
教室での文字学習は時間の無駄だ。	0	0	1	6	9
授業でのひらがなカード読み練習は役に立った。	9	2	4	1	0

ひらがなよりローマのほうが読みやすい。	3	6	7	0	0
ひらがなよりローマのほうが書きやすい。	2	5	4	4	1

結果としては学生の文字学習に対するモチベーションは十分あり、文字がこれからの言語学習の継続のための大事な要素だということがしっかり理解できているということがわかった。

3.4.2 パイロットコース(2)のひらがな書きの評価結果

ひらがな 46 文字の書きテストの結果は以下のとおりだった。60%以上（28 文字以上）のひらがなが書けた学生は、16 人中 12 人（75.0%）いた。しかし、書いたひらがなのうち 3 つ以上の形が崩れていると判断される学生の数を集めた結果、16 人中 5 人（31.3%）いた。このことは、ひらがなの書き指導の必要性を物語っているように思われた。

表 4：パイロットコース(2)のひらがな書きテストの結果（対象学生合計：16 人）

書けたひらがなの数	42 文字以上	37~41	33~36	28~31	23~27	23 文字以下
46 文字中の割合	90%以上	80%~90%	70%~80%	60%~70%	50%~60%	50%以下
人数	9	1	1	1	1	3

3.5 本格コースデザインについての教師間の話し合い

本格コースのデザインはパイロットコース(1)、パイロットコース(2)を経て学んだこと、及び、カイロセンター講座非常勤講師 2 名が日本語国際センターの JF 海外日本語講座講師訪日研修の第 2 段階に参加して学んできたことを生かして行われた。しかし、その際、最も問題になったのは、かつどう編とりかい編の組み合わせ方の問題であった。この点について、以下のような問題点が挙げられた。

- ・りかい編の一つの課の内容が多すぎて、2 時間（一回）では収めきれないため、読解と作文が宿題になることが多い。そのフィードバックは次の課のかつどう編の授業でできないこともある。
- ・りかい編の授業をより面白くしたいという教師間の志しに対して、日本語国際センターの JF 海外日本語講座講師訪日研修の第 2 段階で一つの方法として挙げられたのは、一人での活動、二人、三人での活動など、学生のグループの作り方や活動にバリエーションをもたせるということである。しかし、このような工夫による多様で面白いクラス活動は、理想ではあるが、時間の余裕がないため、十分行うことはできない。
- ・文法説明の時間が足りない。
- ・学生が興味を示した漢字の紹介の時間も足りない。

- ・短時間で作文を書かせることがあるが、あまり効果が得られない。

そこで解決法として参考にしたのが、カンボジア日本人材開発センターの講座でのコースデザインの事例だった。カンボジアでは、1トピックあたり、かつどう編の授業が1回120分、続くりかい編の授業が2回にわたって240分のコースデザインになっている。この組み合わせを取り上げれば、上記の課題はすべて解決されるとともに、カイロセンターの講座が課題としている文字指導の時間も十分取れるのではないかと考えた。前述の通り、当初は、マニラ日本文化センターの事例を参考に、レベル1とレベル2の間に文字コースを設けようという案も念頭においていたが、このカンボジアの事例のようにりかい編の時間数を2倍にすることで、文字コースを設ける必要性もなくなるのではないかと考えた。この話合いに基づいて作り上げた本格コースの概要は資料1のとおりである。この中で特に「ひらがな読み書き」指導について説明する。

4. 本格コースの概要と「ひらがな読み書き」指導の内容

本格コース全体で行った「ひらがな読み書き」指導は以下のとおりである。

- ・まるごとの1課と2課で日本語の文字（ひらがな、カタカナ、漢字）を紹介した。ひらがな、カタカナカードを使って、いろいろなゲームをした。（教科書通り）
- ・2課が終わったところで書道の文化体験を行った。その授業のクラス活動は（安富 2015）の通りである。
- ・3課からりかい編の授業においてのみ、最初の15分間を文字書きの時間とした。文字の形の練習、書き順の練習のために、毎回2行ずつ書かせた。資料2はそこで使われたひらがな練習帳のサンプルである。次に、習った文字の語彙をいくつか読ませる練習をした。
- ・毎回、（かつどう編、りかい編を問わず）授業の最初の5分～10分を使って、ひらがなの語彙読みの練習をした。（毎回、前の授業で練習した語彙の振り返りをしてから、新しい語彙を2つ増やした）。これはそれぞれ担当の教師でパワーポイントで作ったスライド（以下PPT）を使った人もいれば、紙カードを使った人もいる。
- ・繰り返して語彙を覚えてきた段階で、語彙読みのPPTスライドや紙カードの代わりに、語彙の一部の文字を抜いて、抜いた部分の文字を学生に板書させる練習を行った（図1）。

この練習はPPTを使って行った。この練習にはいくつかの効果があり、学んだ語彙の復習、語彙読みの練習になっただけでなく、前に出て板書させることで、教師が形や書き順の注意をする機会が得られた。

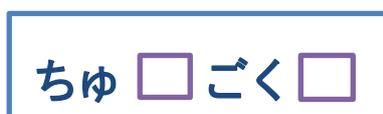


図1：語彙練習の例

5. 実践の成果

ひらがな指導の成果を図るためにひらがな読みテストと書きテストを行った。

5.1 ひらがな読みテストの形式と結果

ひらがな読みテストは資料3のとおり未習語彙読みテスト（5つ）と学習範囲の短文読みテストを行った。評価の仕方は資料4のとおりである。この結果を以下の表5に示す。

表5 本格コースのひらがな読みテストの結果 (対象合計：30人)

語彙 読み	評価	③ (全部できた)	② (3つできた)	① (3つ以下)
	人数 (%)	6 (20%)	10 (33.3%)	14 (46.7%)
短文	評価	③ (全部読めた)	② (半分読めた)	① (あまり読めなかった)
	人数 (%)	14 (46.7%)	9 (30%)	7 (23.3%)

表5から分かるように、語彙の読みが全部できた学生が6人であるのに対して、短文の読みが全部できた学生は14人であった。この意外な結果は、未習語彙は読めなかったが、学習した短文は読めた人が多くいたことを表している。そこで、読む技能というものは文字認識だけではなく、他にもいろいろな要素（スキーマや推測力等）が加わっているということを改めて意識した。

5.2 ひらがな書きテストの結果

表6：本格コースの文字書きテストの結果 (対象学生合計：53人)

書けたひらがなの数	42文字以上	37~41	33~36	28~31	23~27	23文字以下
46文字中の割合	90%以上	80%~90%	70%~80%	60%~70%	50%~60%	50%以下
人数	25 (7)	5 (1)	8 (2)	3 (1)	1	11 (1)

()の中の数字はパイロットコース(2)を受けた学生である。

表6のとおり60%以上のひらがなが書けるようになった学生は、合計すると53人中41人であり、約77%で、パイロットコース(2)の結果(表4)の75%とあまり変わらない割合だが、文字の形が3つ以上崩れている学生の数を数えた結果、53人中5人(9.4%)であった。この

数字は 明らかに、パイロットコース(2)の場合の 31.3%よりも少なく、改善されていることが分かる。

資料5はパイロットコース(2)と本格コースの両方のコースに出席し、両方のテストを受けた二人の学生のひらがなテストの結果である。学習時間が多くなったためという理由も考えられるが、本格コースでの指導を経て、明らかに文字の形が良くなっていることがわかる。

こういった文字指導の効果が得られたのは、教師のいろいろな工夫の結果とも考えられるが、筆者は、この本格コースのデザイン（かつどう編の授業が1回120分、続くりかい編の授業が2回にわたって240分）そのものが一番の要因となっているのではないかと考える。

6. 今後の方針

レベル1本格コースでは「ひらがな」が中心になっていたが、「カタカナ」もレベル2から同じような流れで指導されていくことになっている。また、カタカナカードだけではなく、生教材（新聞、メニュー、広告、お菓子の箱、缶詰め等）も読み練習で使うことになっている。さらに、漢字に関しても、同じように具体的の方針を決め、指導が行われることになると考える。

最後に、これから課題になりそうな点について述べる。入門期からずっと『まるごと』を使って学習を進めてきた、いわば『まるごと』育ちの学生に対して、文法力が弱いのではないだろうかという不安が一部の教師間にある。この不安に対しても、今カイロセンターで使われているコースデザインが、やはり一つの解決法として利用できるのではないかと考えている。時間的に余裕をもたせた、ゆったりしたりかい編の授業を利用して文法のまとめなどの時間が得られるのではないかと思う。

[参考文献]

安富康子 (2015) 「カイロ『まるごと』導入プロジェクト」 『「JF 日本語教育スタンダード」準拠コース事例集 2014-JF 講座における実践一』 国際交流基金、15-26

資料1：レベル1本格コースの概要（予定表）

回	曜日	トピック	活動内容（目標 Can-do）
1	28/01/2014 水	1	オリエンテーション（「まるごと」概要説明） テキスト・CD・PF 紹介&説明 注：メールリストのチェック 1課 「かつどう」 こんにちは ①こんにちは 1)2)3) ②ひらがな・カタカナ・漢字 1)2)3)
2	01/02/2014 日	1	1課 「りかい」 ひらがな ①ひらがなをよみましょう 1)2)3)
3	04/02/2014 水	1	1課 「りかい」 ひらがな ②ひらがなを書きましょう 1)2)3)
4	08/02/2014 日	1	2課 「かつどう」 もういちどおねがいします ①はい、います ②きいてください 1)2) ③もういちどおねがいします ④ひらがな・カタカナ ⑤なまえ 1)2) 生活と文化
5	15/02/2014 日	1	2課 「りかい」 カタカナ ①カタカナをよみましょう 1)2)3) 【単語】 つくえ・とけい
6	18/02/2014 水	1	2課 「りかい」 カタカナ ②カタカナを書きましょう 1)2)3) 【単語】 さかな・ざっし
7	22/02/2014 日	1	文化紹介：書道
8	25/02/2014 水	2	3課 「かつどう」 どうぞよろしく ①どうぞよろしく 1)2) ②ぺんきょうちゅうです 1)2)3) ③おしごとは 1)2) ④めいし 1)2) 【単語】 せんせい・きょう しつ
9	01/03/2014 日	2	3課 「りかい」 どうぞよろしく ①もじとことば 1)2) ②かいわとぶんぼう 1)2)3) 【単語】 もういちど・おね がいます あ行・か行
10	04/03/2014 水	2	3課 「りかい」 どうぞよろしく ③かいわとぶんぼう 1)2) ④どっかい ⑤さくぶん 【単語】 なまえ・ かいてください さ行・た行
11	08/03/2014 日	2	4課 「かつどう」 かぞくは3人です ①かぞくは3人です 1)2)3) ②おいくつですか 1)2)3) 生活と文化 【単語】 どうぞよろし・は じめまして

12	11/03/2014 水	2	4課 「りかい」 かぞくは3人です ①もじとことば 1)2)3)4)5) ②かいわとぶんぼう 1)2)3)4)	【単語】 べんきょうちゅう う・できます な行・は行
13	15/03/2014 日	2	4課 「りかい」 かぞくは3人です ③かいわとぶんぼう 1)2) ④どっかい ⑤さくぶん	【単語】 しごと・ちゅうご くご ま行・や行
14	18/03/2014 水	3	5課 「かつどう」 なにがすきですか ①にくがすきですか 1)2)3) ②コーヒーのみますか 1)2)3) ③いつもあさごはんをたべますか 1)2)	【単語】 しゅふ・めいし
15	22/03/2014 日	3	5課 「りかい」 なにがすきですか ①にくがすきですか 1)2)3) ②コーヒーのみますか 1)2)3)	【単語】 かぞく・おとうと ら行・わ行
16	25/03/2014 水	3	5課 「りかい」 なにがすきですか ③かいわとぶんぼう 1)2)3)4)5) ④どっかい ⑤さくぶん	【単語】 いもうと・あに
17	29/03/2014 日	3	6課 「かつどう」 ①きょうはどこでたべますか 1)2)3)4) ②ハンバーガを食べましょう 1)2)3)4) 生活と文化	【単語】 あね・おっと
18	01/04/2014 水	3	6課 「りかい」 ①もじとことば 1)2)3)4) ②かいわとぶんぼう 1)2)3)	【単語】 おねえさん・たべ ます
19	05/04/2014 日	3	6課 「りかい」 ③かいわとぶんぼう 1)2)3)4) ④どっかい ⑤さくぶん	【単語】 みそしる・ぎゅう にゅう
20	08/04/2014 水	3	文化紹介：寿司作り	
21	15/04/2014 水	3	7課 「かつどう」 ①わたしのいえはせまいです 1)2)3) ②エアコンがあります 1)2)3)	【単語】 あさごはん・りょ うり
22	19/04/2014 日	4	文化紹介：歌 ポートフォリオ振り返り	【単語】 おいしい・こうち ゃ
23	22/04/2014 水	4	7課 「りかい」 ①もじとことば 1)2)3)4)5) ②かいわとぶんぼう 1)2)3)4)5)	【単語】 うどん・そば
24	26/04/2014 水	4	7課 「りかい」 ③かいわとぶんぼう 1)2) ④どっかい ⑤さくぶん	【単語】 やすい・とうきよ う

25	29/04/2014 水	4	8課 「かつどう」 ①にんぎょうはどこですか 1)2)3) ②いらっしやい／おじゃまします ③ここはわたしのへやです 1)2)3) ④ともだちのいえはここです 生活と文化	【単語】 おおさか・あたらしい
26	06/05/2014 水	4	8課 「りかい」 ①もじとことば 1)2)3)4)5)6) ②かいわとぶんぼう 1)2)	【単語】 あかるい・ひろい
27	10/05/2014 日	4	8課 「りかい」 ③かいわ 1)2) ④どっかい ⑤さくぶん	【単語】 ほっかいどう・おきやくさん
28	13/05/2014 水	5	9課 「かつどう」 ①6時半におきます 1)2)3) ②はやいですね 1)2) ③まいにちいそがしいです 1)2)	【単語】 にんぎょう・そうじ・じゅうしょ
29	17/05/2014 日	5	9課 「りかい」 ①もじとことば 1)2)3)4)5) ②かいわとぶんぼう 1)2)	【単語】 きれい・だいどころ・おきます
30	20/05/2014 水	5	9課 「りかい」 ③かいわ 1)2)3)4)5)6)9 ④どっかい	【単語】 いきます・よみます・じゅうじ
31	24/05/2014 日	5	10課 「かつどう」 ①6じはんにおきます 1)2)3) ②はやいですね 1)2) ③まいにちいそがしいです 1)2) 生活と文化	【単語】 いそがしい・はいります・かいもの
32	27/05/2014 水	5	10課 「りかい」 ①もじとことば 1)2)3)4)5)6) ②かいわとぶんぼう 1)2)	【単語】 げつようび・はくぶつかん・びじゅつかん
33	31/05/2014 日	5	10課 「りかい」 ③かいわとぶんぼう 1)2) ④かいわとぶんぼう 1)2) ⑤どっかい	【単語】 だいどころ・かいしゃ・がっこう・だいじょうぶ
34	03/06/2014 水	1～5	テストとふりかえり1 (トピック1-5) 「かつどう」	
35	07/06/2014 日	1～5	テストとふりかえり1 (トピック1-5) 「りかい」	
36	10/06/2014 水		結果発表	

資料2：ひらがな書き指導で使われた練習帳のサンプル



資料3：ひらがな読みテスト(例)

8/25/2015 国際交流基金カイロ日本文化センター日本語講座 12

レベル1
ひらがな読みテスト(研修用)

語彙読み
くるま べんごし きゅうり
はいしゃ けっこん

短文
わたしは やまだです。かいしゃいんです。
にほんじんです。
かんこくごが できます。かぞくと すんでいます。

資料4：レベル1ひらがな読みテスト・評価表(研修用)

	くるま	べんごし	きゅうり	はいしゃ	けっこん	語彙評価			長文		
						3	2	1	3	2	1
1											
2											
3											

- 語彙評価 ③ぜんぶできた ②3つできた ①3つ以下
長文評価 ③ぜんぶ読めた ②半分読めた ①あまり読めなかった

資料5：パイロットコース(2)と本格コースの両方のコースに出席して、両方のテストを受けた学生2人のひらがなテストの結果

34/46

形正正⑩

ta	ya	ka	
re	ki	sa	o (object marker)*
so	yu	a	ru
tsu	me	te	nu
ne	mi	e	ri
na	shi	ko	chi
ra	hi	hu	to
mu	mo	ke	he
u	se	ma	ho
no	su	ya	ni
n	o	ku	ha
	i	ro	wa

パイロットコース(2)のときのひらがなテスト

43/46

i	o (object marker)*	u	
ro	wa	n	sa
ha	ka	no	ki
ni	yo	o	yu
ho	ta	ku	me
he	re	ya	mi
to	so	ma	shi
chi	tsu	ke	hi
ri	ne	hu	mo
nu	na	ko	se
ru	ra	e	su
	mu	te	a

本格コースのときのひらがなテスト



18/46

形正⑥

i	o (object marker)*	u	
ro	wa	n	sa
ha	ka	no	ki
ni	yo	o	yu
ho	ta	ku	me
he	re	ya	mi
to	so	ma	shi
chi	tsu	ke	hi
ri	ne	hu	mo
nu	na	ko	se
ru	ra	e	su
	mu	te	a

パイロットコース(2)のときのひらがなテスト

38/46

形正

i	o (object marker)*	u	
ro	wa	n	sa
ha	ka	no	ki
ni	yo	o	yu
ho	ta	ku	me
he	re	ya	mi
to	so	ma	shi
chi	tsu	ke	hi
ri	ne	hu	mo
nu	na	ko	se
ru	ra	e	su
	mu	te	a

本格コースのときのひらがなテスト

